

## 「懐かしい未来：ラダックから学ぶ」ダイジェスト版映像の ワークショップや授業での活用のために（案）

2011年12月31日

NPO 法人懐かしい未来

### ■趣旨・ねらい：

ヒマラヤの辺境ラダックに関するドキュメンタリー映像を見て考え想像することで、世界、そして日本の過去・現在・未来について、さまざまな気づきを得る。参加者が世界を捉える新たな視点を獲得し、人としての本当の豊かさや幸せ、今の社会のあり方に関する問題意識が生まれ、未来は選択できるということへの理解を促す。閉塞感のある現在の時代状況を大局的な視点で捉えなおすことで、参加者の中で、未来に対する希望が心の中に芽生えてくることが望ましい。今まで世界の開発・発展、近代化、ラダックについて、関心を持っていた人はさらに理解が深まり、関心を持っていなかった人にも、考えるきっかけとする。

### ■映像の概要：

三部構成となっている。

第一部：伝統の中のラダック 7分46秒

第二部：変わりゆくラダック 12分39秒

第三部：ラダックから学ぶこと 6分16秒 計26分41秒

### ■対象者：

大人（老若男女）、大学生、高校生、中学生、小学高学年

### ■目的：

- (1) ヒマラヤの辺境ラダックに息づく伝統智や、グローバル経済の中での変化を理解する。
- (2) それらを鏡として自分たちの過去や現在を新たな視点で捉えなおす。
  - 1 日本の忘れられた伝統智を思い出す。
  - 2 近代化によっていつのまにか失ったものに気づく。
- (3) 地域のコミュニティや自然に根ざして生きることの大切さを理解し、一人ひとりにとっての懐かしい未来を想像し描く。

### ■着地点：

- (1) 近代化による社会や人間のあり方の変化を大局的に捉える視点を獲得している。
- (2) ヒマラヤの辺境ラダックを理解することが、日本の未来を想像・創造するヒントになることが理解できている。
- (3) 日本の伝統智や近代化による変化についてさらに学びたいという問題意識や意欲が育っている。
- (4) 人、自然、自分自身に再びつながった懐かしい未来を描くことで、未来への希望を感じ、ワクワクしている。

■方法：

- (1) 映像を活用し、参加者自らが考え、描く。ファシリテーターはそれをファシリテートする。
- (2) ファシリテーターはそのための最低限必要な情報提供を行う。

■必要な機材：

DVD プレーヤー（パソコン）、プロジェクターまたはテレビ、必要に応じてインドの地図（インドそしてラダックの位置を示せるもの。但し小学高学年～高校生には、かえってこのような背景説明がない方が学びや想像が深まるかもしれない。）

■【ワークショップ・プラン1（所要時間：50分×2コマ）】

1回目：第一部と第二部（計50分）

- (1) ワークショップの趣旨とラダックという地域について説明する。（5分）
- (2) 第一部を見る前に、第一部で考えてほしい問いを投げかける。例えば、「ラダックにはどんな伝統的な智慧、良さがあるか？」「なぜラダックは長い間、この文化や社会を長い期間存続することができたのか？」「日本にはラダックのような伝統智はあったのか？今それらはどうなっているのか？」など。（2分）
- (3) 第一部を見て、参加型で参加者が意見を出し合う。ファシリテーターはそのファシリテーションと簡単なまとめを行う。必要応じコメントや参考情報を付け加える。（8分+9分）
- (4) 第二部を見る前に、1970年代にラダックでの生活の調和と健全さを乱す事態が起こったことを参加者に伝える。それが何か参加者は想像できるか？意見を出してもらおう。その上で、第二部で考えてほしい問いを投げかける。例えば、「近代化や開発・発展を通じて、ラダックの社会や人びとの心、環境にどのような変化がもたらされたのか？」「近代化や開発・発展を通じて日本で起きたことと同じなのか、違うのか？日本ではどのような問題が発生しているか？」など（4分）
- (5) 第二部を見て、参加型で参加者が意見を出し合う。ファシリテーターはそのファシリテーションと簡単なまとめを行う。必要応じコメントや参考情報を付け加える。（13分+9分）

2回目：第三部とまとめ（計50分）

- (1) 第一部と第二部での学びを出し合い、思い出す。（5分）
- (2) 第三部を見る前に、第一部で考えてほしい問いを投げかける。例えば「第一部から第三部の映像全体を通して、私たちは何を学ぶことができるだろうか？」「本当の豊かさ、人間にとっての本当の幸せとは何なのだろうか？」「私たちはどのような未来を創っていったらよいのだろうか？」など（2分）
- (3) 第三部を見て、参加型で参加者が意見を出し合う。ファシリテーターはそのファシリテーションと簡単なまとめを行う。必要応じコメントや参考情報を付け加える。（6分+10分）
- (4) 発展のあり方の図を質問を投げかけながら説明する。質問としては、「縦軸の上方が何らかの発展、横軸の左方が自然や人との調和・共生、右方が自然や人の搾取・破壊とするならば、伝統的なラダックはどこに位置するか？」「近代化、開発・発展で変化したラダックはどこに位置するか？」「日本やアメリカはどこに位置するか？」「この3つの点を結んだ線の方向性の先には、何があるのだろうか？」

「では私たちはどちらの方向に向かえばいいのだろうか？」など。(12分)

- (5) 懐かしい未来のイメージを出し合う。ある程度それが出てきたところで、「ではどのようにそのような懐かしい未来を実現したらよいのだろうか？」という質問を投げかけてもよいかもしれない。ファシリテーターはそのファシリテーションと簡単なまとめを行う。必要に応じてコメントや参考情報を付け加える。(15分)

■【ワークショップ・プラン2 (所要時間：50分)】

- (1) ワークショップの趣旨とラダックという地域について説明する。(5分)
- (2) 映像(第一～三部)を見る前に、考えてほしい問いを投げかける。例えば、「ラダックの伝統的な智慧、良さはどういうところにあったのだろうか?」「近代化、開発・発展による影響でラダックで何が起きたのだろうか?」「日本はどうだったのだろうか?」など(3分)
- (3) 映像を見る。(27分)
- (4) 上記の質問などを必要に応じて再度投げかけ、さらに追加の質問を投げかける。「印象に残ったことは?」「自分たちの暮らしと似ているところと違うところは?」「ラダックにあってここいないものは?逆にここにあってラダックにないものは?」「ラダックの伝統的な暮らしはどう思う?」「ラダックの伝統的な智慧、良さはどういうところにあったのだろうか?」「ラダックの人はなぜ真の経済学者なのでしょう?」「近代化、開発・発展による影響でラダックで何が起きたのだろうか?」「日本はどうだったのだろうか?」「日本人とラダック人とどちらが幸せだと思いますか?それはなぜですか」など。参加型で参加者が気づいたこと、学んだことについて意見を出し合う。一通り出し合った後、さらに「この映像から私たちは何を学ぶことができるだろうか?」「本当の豊かさ、人間にとっての本当の幸せとは何なのだろうか?」「あなたはどのような未来を創りたいか?」などのまとめ的な質問を投げかける。ファシリテーターはそのファシリテーションと簡単なまとめを行い、必要に応じてコメントや参考情報を付け加える。(15分)

■学びを深めるための問い

上記のワークショップ・プランでさまざまな問いを例示した。ここではさらに学びを深めるための問いを例として挙げてみる。

1. ラダックで起こっている開発は「進歩」と言えるか?なぜか?

2. 過去と現在のラダックにおける以下の項目を比較する

- ・ 物理的快樂、モノ
- ・ 関係性
- ・ 自然とのつながり
- ・ 教育
- ・ 女性の役割
- ・ 年長者の役割

- ・食糧生産（農業）／分配、
- ・お金
- ・時間
- ・家・居住地
- ・自給・自立・自律
- ・幸せ感
- ・くらしの規模
- ・技術

3. ラダックは伝統的な生活に戻れるか、また戻るべきか？伝統文化のどのような側面を残していくべきだと思うか？新しい生活にそれらの長所を統合していけると思うか？どのように？

4. ラダックの伝統文化は、自分たちの国の問題の根源について何を教えてくれるか？日本で抑圧されてきた少数民族の文化は何を示唆してくれるか？

5. 何がラダックの家族とコミュニティの崩壊を招いたか？なぜ人々は土地を離れたのか？その結果どのような事態になったか？

6. 西洋の映画、製品、広告、洋服等は世界中の文化を変貌させている。これらの変化は肯定的なものか？否定的なものか？

7. ラダックの開発は人々を幸せにしたか？健康にしたか？自由にしたか？どのような点において？人間にとって、幸福とは？健康とは？自由とは？

## ■学びの展開

この映像を題材に、さまざまなより体験的な学びを組み立てることができる。以下はあくまでその例である。

1. 数人のグループを作り、ラダック旅行の広告ポスターかTVコマーシャルを作成する。他のグループには（ラダックの人々向けに）自分たちの町への旅行のポスターを作る。

2. 参加者がラダックの伝統的な10代の若者になり、自分たちの町にやってきて、西洋の文化を初めて目にしたと想定する（自動車、レストラン、ホテル、テレビ、コンピューター、環境汚染、飢餓、ホームレス、犯罪）。彼らの視点から、ラダックの家族や友達に「奇妙な」日本の文化についての手紙を書く。

3. 参加者同士でペアを組み、以下の場面の1つを演じる、もしくは参加者自身が作った場面を想定する。

- (1) ラダックの若者があなたと一緒に最新の人気アメリカ映画を見に来ました。若者はその映画はアメリカでの現実の生活を映し出していると思ってしまいました。
- (2) ラダックの伝統的な家の出身の若者と一緒にあなたの町の人気のファストフード店にやって来ました。2人はラダックの伝統的な食べ物とアメリカの食べ物を比較します—その食べ物

- はどこから来たのか、どのように栽培され調理されているのか、栄養価はどうかなど。
- (3) 大麦の育て方、家の建て方、毛からシャツの作り方などを学んでいるラダックの伝統的な村出身の若者が、日本の教育について議論するためにあなたの学校にやってきました。

4. ラダックではどのような職業が評価されているか？小さなグループを作って自分たちの社会で評価されている職業のリストを作る。そしてそれらの職業を社会への貢献度別に分類する。どの職業がリストの一番上、または一番下に挙がっているか？実際にはどの職業の稼ぎが最も多く見えるか？グループごとにリストを比較する。（俳優、ロックスター、モデル、スポーツ選手などを忘れないこと。）

5. 映像の中のテーマを1つ選び、おじいさんおばあさんやコミュニティの年長者に、彼らが若い頃からそのテーマに関する事がどのように変化していったのかインタビューする。それらをクラスで紹介しよう。テーマは：

- a. 教育
- b. 土地の利用法
- c. 食料の生産と調理法
- d. 家族やコミュニティ内での女性の役割
- e. 家族やコミュニティ内での年長者の役割
- f. 儀式（誕生、結婚、お葬式、祝日など）
- g. 時間（余暇、仕事、自分のための時間、家族のための時間など）
- h. コミュニティの中での家族の役割 インタビューの前に、質問する内容をよく検討しておく。失われた伝統にはどのような長所があったのか？現在の生活にそれらをどのように取り込めはよいのか？ など

6. 自分のコミュニティにかつて存在していた伝統文化について調べる。今住んでいる地域にはどのような伝統文化が存在したか？それらの伝統文化とラダックの伝統文化を比較する。自分たちの伝統文化から何が学べるだろうか？健康的で人間的な将来を保証するため、彼らの知恵をどのように自分たちの生活に統合し、実践していけばよいか？本のタイトルである「懐かしい未来」の意味を考える。

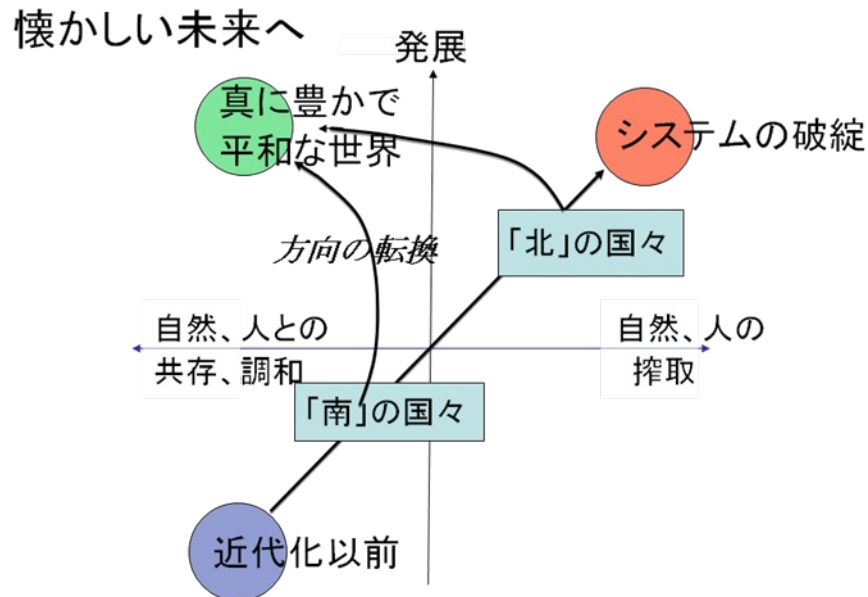
7. 発展のあり方の図を用いて、私たちが進んできた道とこれからの道について整理し、方向感覚を得る。ホワイトボード上で質問を投げかけながら進めてもいいが、部屋全体を以下の縦軸・横軸で四つに分け、質問に対してその場所に実際に立ってもらうことでより体験的な学びを行うことができる。

(1) 縦軸で上に行けばいくほど、なんらかの発展があるとする。横軸は、左に行けば行くほど、自然や人との調和、共存がある。右へ行けば行くほど、自然や人の搾取、破壊があるとする。

(2) 伝統的なラダックはどこにあったか？変化したラダックはどこにあるか？日本やアメリカはどこにあるか？これらを結ぶと、大雑把に単純化して見ると、近代化以前の状態から現在まで、開発・発展の名の下に、ある種の発展はあったが、同時に自然、人の搾取、破壊を伴う方向性であったことがわかる。

(3) このままこの方向性で行くと、さまざまなシステムの破綻、危機が起きてしまう。実際、金融危機、気候変動、原発事故など、生命が地球規模で脅かされる事態が起き始めている。では、どちらの方向に向かえば良いのか？

(4) 「北」の国々（いわゆる先進国）も「南」の国々（いわゆる開発途上国）も、発展の方向を転換させる必要がある。そのとき、「北」の国々は、自ら創りだしてきた仕組み自体が世界に様々な問題を引き起こしていることを認識しつつ、「南」の国々から学び、自分たちが失ってしまったことをもう一度思い出して、新たな世界に向けた道を想像・創造していく必要がある。「南」の国々は、「北」の国々が夢の国であるような幻想を持たないようにし、「北」の国々から学ぶべきことは学び、学ぶべきではないことは学ばないようにして、独自の道を探し歩んでいかなければならない。



■ワークショップを行う上での留意点：

- (1) 伝統や過去を賛美してそこに戻ろうとするものではない。また近代化や開発・発展のすべてを批判・否定しようとしているのでもない。ファシリテーター自身がこの映像の提起することをよく理解し、大局的な視点を見失わないようにすることが必要である。
- (2) ヒマラヤの边境ラダックについて、映像を通じて理解を促進させつつ、それが日本の過去や現在についての気づきにつながるように、適切な質問を投げかける必要がある。
- (3) ファシリテーターが年輩の場合であれば当たり前のように理解できる伝統智や近代化の影響による変化が、参加者にはピンとこない、よくわからないと感じられるかもしれない。日本の伝統智や近代化の影響による変化について、参加者がわかるような具体例をファシリテーターが提示することで、参加者の理解を助ける必要がある場合がある。
- (4) 扱うテーマが大きく深く、またさまざまなテーマが含まれているので、下記の「映像に含まれているテーマ」を参考にしながら、さらに学びと気づきを深めていくことが望ましい。
- (5) グローバリゼーションとローカリゼーションは、懐かしい未来の映像では正面から取り上げられていないが、この映像が提起することには、経済グローバリゼーションが野放しに進められた結果さまざまな問題が世界各地で起きていること、それを超える道としてローカリゼーションという道があるということが背景として含まれている。従って、テーマを深め、参加者より大きな世界

観を獲得し行動へと結びつけていくためには、ファシリテーターが経済グローバリゼーションの問題点とローカリゼーションのことを理解しておくことが望ましい。

- (6) 豊かで幸せな未来について思いを馳せて終わるのではなく、それが絵空事ではないこと、懐かしい未来へ至る道としてのローカリゼーションは可能であり、良い未来の実現のために人びとが既に動き出していること、まず想像しそして自ら創造していくことが大切であり可能であることを参加者が理解することが望ましい。ファシリテーターや参加者が一つでも二つでも、身近な実践を行うことができればベストである。
- (7) 懐かしい未来の映像が指し示す方向は確かにあり、それがローカリゼーションとも結びつき、単なる教室での学習で終わらせずに地域でのローカリゼーションの身近な実践を探したり、ファシリテーター・参加者で実践してみたりすることにつながるのだが、あくまで参加者自らに考えてもらうことが基本なので、誘導しすぎるようなことがあってはならない。

■参考資料：

- (1) 『懐かしい未来：ラダックから学ぶ』懐かしい未来の本 2011年

『懐かしい未来』の映像の元になった本。映像では議論を喚起させるために黒白をはっきりさせた編集となっているが、本ではラダックの伝統智や近代化の影響が丁寧に生き生きと描写されている。ワークショップを行う前にファシリテーターは読んでおくことが望ましい。

- (2) DVD『懐かしい未来：ラダックから学ぶ&地域から始まる未来：グローバル経済を超えて』  
『懐かしい未来』ダイジェスト版の元になったのが、上記『懐かしい未来』フルバージョン（55分）である。時間を半分に縮めたダイジェスト版と比べて、フルバージョンではドキュメンタリー映像としてゆっくりと楽しめる。また、『懐かしい未来』を問題提起編とすれば、2本目の『地域から始まる未来』は解決の方向や具体例を示す解決編・実践編となっている。『懐かしい未来』の問題提起が指し示す今後の未来のあり方を理解するために、『地域から始まる未来』はワークショップ前に見ておくことが望ましい。

- (3) ブックレット『ローカリゼーションの胎動』、雑誌『農村文化運動 号：ローカリゼーションの胎動』、雑誌『農村文化運動 号：都市が農村に学ぶ時代』

懐かしい未来を実際に実現していく方向性として『地域から始まる未来』でも描かれるローカリゼーションについて、その全体像や具体例を示している。懐かしい未来を単なる問題提起や絵空事に終わらせず、現実に世界や身近なところで実現していくにはどうしたらよいかを理解するために、これらのブックレットや雑誌のうちの少なくとも一つをワークショップの前に読み、このワークショップで学んだことをどうその後の学びや実践に活かすかを描いておくことが望ましい。

- (4) 『いよいよローカルの時代～ヘレナさんの「幸せの経済学」』2009年

『懐かしい未来』の著者であり、映像にも登場するヘレナさんの人柄や背景、その後の活動について、インタビュー形式でわかりやすくまとめられている。読みやすいので、(1)～(3)を読んだり見たりすることが難しい場合は、この一冊だけでも読んでおくが良い。

- (5) 映像 『幸せの経済学』

グローバリゼーションとローカリゼーションについての説明が、映像を通じて行われており、より明確にグローバリゼーションとローカリゼーションについて理解することができる。

- (6) ブックレット『土と心と社会』『つながりを取りもどすために』

現代の生きるガンジーとも言われるサティシュ・クマールの来日講演の記録。ローカリゼーションが指し示す生き方が、大変わかりやすく書かれている。同じ著者の『君あり、故に我あり：依存の宣言』（講談社学術文庫）も人間にとって本当に大切なことを教えてくれる。

■映像に含まれているテーマ：

伝統の中のラダック

- (1) 地域社会における豊かな自立、自給的経済
- (2) 仕事と余暇の一体性、仕事の喜び
- (3) 人間と大地との密接な関係
- (4) 相互扶助（農、葬式などにおいて）
- (5) 相互依存
- (6) 自治
- (7) 女性、子ども、年寄りの社会的位置づけ
- (8) 属するということ
- (9) 伝統文化の今日的意義
- (10) 宗教の役割

第二部 変わりゆくラダック

- (11) 近代化、発展とは
- (12) 環境の悪化
- (13) 外部の資源への依存
- (14) 力を奪われること（疎外化）
- (15) 奪われる時間
- (16) 犯罪と暴力、民族紛争の悪化
- (17) 貨幣経済による格差の拡大
- (18) 心理的刷りこみ
- (19) 観光の問題
- (20) 映画、テレビの影響
- (21) 近代的教育の問題点
- (22) 女性の孤立化、負担増
- (23) 近代化による混乱、みじめさ
- (24) 社会の規模

第三部 ラダックから学ぶこと

- (25) 発展、進歩、開発を捉えなおす
- (26) コミュニティの結びつき
- (27) 地域の価値とその重要性
- (28) 科学による支配
- (29) 富とは何か、GNPのおかしさ
- (30) 知恵とは

## (31) 幸せとは

### ■ラダックという地域

ラダックはヒマラヤ山脈の西のはずれ。インドのジャンムー・カシミール州の中にある。中心部の町レーは標高3700メートル。極度に乾燥しており、雨は年間200ミリほどしか降らない。冬はマイナス30度から50度になる。厳しい環境の中で飢餓もなく暮らしてこれた一つの理由は、ヒマラヤの雪解け水を利用するかんがい施設を共同管理することで、短い農耕可能期（5月～10月）に比較的安定して水を確保できたからである。人口の90%は敬虔なチベット仏教徒、10%はイスラム教徒である。ラダックは中国、パキスタンと国境を接しているが、実は国境が今でも確定していない。地図上では実効支配線が引かれていたり、それぞれの国が主張する国境が書かれていたりする。軍事的な緊張が続く地域であり、またチベットが中国による占領に抗議した軍事行動を1974年まで続けていたこともあり、ラダックでは1974年まで外国人には閉ざされた世界であった。それが1974年になって外国人にも門戸が開かれ、開発政策がインド政府によって進められた。これらの事情で、ラダックでは比較的伝統的な社会が昔ながらの姿で比較的最近まで残り、またその後、急激な変化に見舞われることになった。

映像ダイジェスト版が制作されたのは2011年であるが、その元となったフルバージョンのさらに元になった英語オリジナル版は1993年に制作されている。1993年以降のラダックの動きとしては、ヘレナさんのサポートもあってラダック女性連合が結成されたことが大きい。『地域から始まる未来』に少し描かれているが、ラダック女性連合はメンバーが8000名にもなり、ラダックで一番大きな市民団体となっている。女性たちは日々のさまざまな問題を話し合い、村々に伝わる在来種の種を交換したり、協力して手工芸品を販売したりしている。買い物などのときのビニール袋を撤廃させ、紙袋に変えさせたのも女性連合である。またインド政府が近代農法を広めるためにマイクロクレジットの融資を受けないかと持ちかけた時は、受取った後の問題をさまざまに検討した後、拒否するという結論を出したのも女性連合である。このように、ヘレナさんからのサポートを得て伝統智を継承しつつ、西欧的な開発・発展の後追いをせずに、本当の持続可能性、幸福、豊かさ、健康へと向かう動きが草の根で始まっている。一方で、インド政府（州政府、ラダック自治政府）は、女性連合など力を持ち始めた市民団体への締め付けを厳しくしており、懐かしい未来に登場する学生運動代表のワンチュック氏は現在、亡命を余儀なくされている。農村部では昔ながらの景観が比較的保たれているが、グローバル経済が世界を覆う中で価値観の崩壊は徐々に進んでいる。

ラダックとブータンは、文化的に同じチベット文化圏に属し、チベットに対して連合して戦ったことがかつてあるなど、歴史的にも深い関係にある。ブータンもラダックを同じく伝統智が比較的残されてきたが、1999年のインターネットやテレビの解禁に伴い、社会的・文化的・精神的な変化が進み始めている。ラダックの違いとしては、ブータンは政府自らが徒な開発を抑え、ブータン国民にとって望ましいスローな開発を進めている点にある。最近ブータン国王が1976年に提起した国民総幸福度（GNH）が、GNPに代わる社会指標として着目されてきている。

（鎌田陽司 記）